



Title	和田章男教授・岩根久教授退職記念号刊行にあたって
Author(s)	山上, 浩嗣
Citation	Gallia. 2020, 59, p. 1-3
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/77087
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

和田章男教授・岩根久教授退職記念号刊行にあたって

本年3月末日をもって、和田章男教授が大阪大学大学院文学研究科を、岩根久教授が大阪大学大学院言語文化研究科を、それぞれ定年退職されます。和田教授は1986年に文学部に助手として着任して以来34年間、岩根教授は1985年に言語文化部に助手として着任して以来35年間、大阪大学にてフランス語やフランス文学を中心とした教育に従事されました。お二人とも、その長きにわたり、貴重な研究成果を恒常的に公刊し、社会のさまざまな分野で活躍する優れた人材を送り出されました。両教授の輝かしいご功績と、大阪大学フランス語フランス文学会のための多大なご尽力に、心からの敬意と感謝の念を表し、『ガリア』本号を「和田章男教授・岩根久教授退職記念号」として刊行する次第です。

以下に、お二人の研究・教育上のご業績について簡単にご紹介します。

和田章男教授は、ブルースト研究の優れた業績で国内外に広く知られています。1986年にソルボンヌ大学に提出した博士論文「L'Évolution de *Combray* depuis l'automne 1909」は、定説を修正し、「カイエ」と呼ばれるブルーストの草稿帳の新たな執筆順・年代設定を提示したことにより高く評価されました（2012年、改訂を経て *La création romanesque de Proust : la genèse de «Combray»* という題でパリのシャンプイオン社から公刊）。また、2009年、ブルーストの草稿帳75冊の総合索引 *Index général des Cahiers de brouillon de Marcel Proust* を作成し、パリのITEM（近代草稿研究所）のサイトで公開、『失われた時を求めて』の草稿調査の利便性を格段に高めました。他方、ブルーストの作品に影響を与えた数々の文学・絵画・音楽作品の研究にも取り組み、その集大成としての単著『ブルースト 受容と創造』を、2020年に大阪大学出版会より刊行する予定です。同教授はまた、ブルーストに関する国際シンポジウムで過去11回の研究発表を行いました。なかでも、2019年9月に大阪大学にて開催された「Proust et l'esthétique de la réception」と題する国際シンポジウムでは、自身が主宰者として内外の研究者を11名招聘し、2日間にわたって活発な討議が行われました。

和田教授は、ふだんの授業では、フランス語原文の精密な読解方法の指導に心血を注ぎ、基礎的な文法の復習の重要性をくり返し説きました。学生の研究発表にはつねに誠実に耳を傾け、的確な助言を与えました。授業での活動の成果として、2007年に朝日出版社から、多くの大学院生が執筆者として名を連ねる『フランス文学小事典』を刊行したことは特筆に値します（本書の改訂版が2020年に刊行予定）。同教授はまた、2010年に、大阪大学共通教育科目「フランス文学入門」の教科書として『フランス表象文化史 美のモニュメント』を大阪大学出版会より刊行し、フランス文化の全体像を広く知らせるのに貢献しました。

和田教授は、日本フランス語フランス文学会では、学会誌編集委員、関西支部

実行委員を歴任、現在は関西支部長の任にあります。また、長年にわたって日本ブルースト研究会の幹事、関西ブルースト研究会の世話役を、さらに、大阪大学フランス語フランス文学会では、2008年以來会長を、それぞれ務めています。

なお、同教授は、2012-2013年度に大阪大学文学研究科評議員・副研究科長、2014-2015年度に同研究科長・文学部長を歴任するなど、大学の管理運営にも大いに貢献しました。

岩根久教授は、大阪大学理学部を卒業し、文学部に2年間研究生として在籍したあと、ロンサール研究を志し、大学院文学研究科に進学しました。大阪大学在職中は、主として16世紀フランスの詩人を中心とした研究と、情報処理技術を活用して文学テキストを分析する研究を行ってきました。前者においては、フランス国立図書館の所蔵文献を長年にわたり綿密に調査するとともに、最近ではインターネット上で公開されている電子テキストを活用し、正確な書誌情報の集積に専心しています。後者の研究においては、その成果を、大阪大学内の共同プロジェクト「電子化言語資料分析研究」、ならびに学外の統計数理研究所言語系共同研究「言語研究と統計」にて随時発表し、情報処理技術を用いたテキスト研究の発展に大きく寄与しました。

岩根教授は、長年にわたり、大阪大学の全学教育としてのフランス語教育に尽力してきました。早い段階からインターネットを活用し、ホームページにおいて学生が習得済の授業内容および授業予定を受講者に常時提供するとともに、ウェブ版のフランス語練習問題を公開し、大阪大学のみならず一般のフランス語学習の機会提供にも貢献しました。また、大阪大学初年次の共通教科書『新・フランス語文法』（朝日出版社）の作成・改訂、およびフランス語初級受講者全員に対する共通テストの実施に熱心に取り組みました。加えて、パソコンを利用した学習支援、近年ではモバイル端末を用いた学習支援の方法を授業に導入しました。同教授は、このような教育に対する貢献が評価され、大阪大学共通教育賞を2度受賞しています。

大学院においては、言語、文化、教育に関わる多様な研究分野を専門とする受講生の各人に、情報処理技術や計量的な研究手法を活用できるように指導しました。さらに、文学部・文学研究科においては、長期間にわたり、ルネサンス期のフランス文学作品を読解する授業を担当しました。

岩根教授はまた、日本フランス語フランス文学会では学会誌編集委員を2期8年間務めたほか、日本ロンサール学会では会長を2012年より現在に至るまで務め、フランス16世紀文学の日本と海外の研究者との連携に力を注いでいます。さらに、e-Learning教育学会では2005年12月以降副会長の任にあります。

なお、同教授は、言語文化研究科外国語教務委員長を務めるほか、全学の組織であるFD委員会、入試委員会、教育課程委員会などで委員として参画するなど、大阪大学における管理運営業務でも重要な役割を果たしました。

このように見ると、お二人の果たしてこられた研究・教育上のご貢献の大きさがあらためて強く認識されます。また、両先生には、本会会員による学務や学会関係の共同作業に際して、われわれ後輩につねに温かいご配慮をたまわりました。私にとってはそのいずれもが心地よい思い出として記憶されています。お二人の多年にわたるご厚意に重ねて御礼申し上げ、このたびご無事に定年を迎えられますことを心より慶賀いたします。両先生におかれましては、今後もくれぐれもご健康に留意され、ますます多方面にてご活躍されることを祈念いたします。

(山上浩嗣)